

# 会 議 録

## 1 平成 27 年度第 2 回上越市博物館協議会

## 2 議題

### (1) 議事（公開）

#### ①平成 27 年度事業実施状況について

ア 上越市立水族博物館

イ 上越市立総合博物館

#### ② 平成 28 年度事業計画(案)について

ア 上越市立水族博物館

イ 上越市立総合博物館

### (2) 報告事項（公開）

#### ①上越市立新水族博物館の整備状況について

#### ②上越市立総合博物館改修事業について

## 3 開催日時

平成 28 年 3 月 24 日（木）午後 1 時 3 0 分から

## 4 開催場所

上越市教育プラザ中会議室

## 5 傍聴人の数

1 人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員 川村知行 関谷伸一 久保田郁夫 稲葉摩利子 清沢聡 矢澤健一  
上原みゆき
- ・ 事務局 新水族博物館整備課長 大瀧紀夫 同副課長 横手正美  
水族博物館長 櫻健太郎  
教育総務課長 滝澤良文  
文化行政課長 中西 聡

総合博物館長 宮崎俊英 同副館長 阿部忠行 係長 花岡公貴  
主任 一越麻紀 主任 荒川 将

## 8 発言の内容

### (1) 議事

#### ①平成 27 年度事業実施状況について

##### ア 水族博物館

##### 【水族博物館資料 1～2 ページに基づき説明】

(関谷委員) 社会教育事業の実施の増減はどうか。

(櫻館長) 名称や実施回数を変更して実施しているため、一概には比較できない。

(川村委員長) 今年度 2 月末までの総入館者数が昨年度比 109%となっている。その理由は何か。

(櫻館長) メディアの情報露出が多くなったことが原因と考えられる。例えば、1 月は鮭の受精卵「イクラ丼」展示を来館者が SNS で発信したことがきっかけでマスコミに知れ、全国版ニュースを含め、各種メディアで取り上げられたことがあった。

(川村委員長) 新幹線開業効果はあるのか。

(大瀧課長) アンケートを見る限り、まだないと思う。新水族博物館は新幹線効果を見込んでいる。

(関谷委員) 問題になっているイルカの確保はどうするのか。

(櫻館長) 野生からの捕獲は不可能なので、横浜八景島のグループ会社の子会社から調達することを考えている。

(川村委員長) イルカ確保は市の基本的姿勢が関わっていると思う。

(大瀧課長) 確保するようにしていく。

(関谷委員) イルカでなくとも、アザラシなどの海獣類でもいいのではないか。

(櫻館長) イルカ以外は想定していない。

(関谷委員) メディア露出が多くていいと思う。しかし、「すいはく新聞」の存在は知らなかった。ニューズレターなどは発行していないのか。

(櫻館長) ニューズレターは配布していない。新聞は、直江津の店、飲食店組合、トキ鉄、上教大生協、上田（長野県）にも配布している。まずは読んでもらうことなので、柔らかい内容にしている。

##### イ 総合博物館

##### 【総合博物館資料 1～5 ページに基づき説明】

(川村委員長) 水族博物館とは比べられないが、入館者が一桁違う。それぞれの立場で頑張ってもらいたい。

\*意見のみで質問などはなし。

## ②平成 28 年度事業計画（案）について

### ア 水族博物館

#### 【水族博物館資料 3～15 ページに基づき説明】

- (稲葉委員) いろいろ実行している水族館なので全上越市民から来館してもらえる水族館になって行ってほしい。なお、山に住む人や入院している人など、新水族博物館がどうなるのか、知らない人が多い。底辺を広げて行ってほしい。
- (大瀧課長) 新水族博物館は直江津に建設されることもあり、地元直江津では盛り上がっている。平成 28 年度はチラシを作るなど周知に努めていく。
- (久保田委員) 「地方創生加速化交付金」活用事業のうち、「高校生の力を地域産業に活かすまちづくりプロジェクト」は海洋高校に決定した (49,085 千円)。具体的内容の一つに「水族博物館との連携」も視野に入れているため、今後ともよろしく願いたい。
- (櫻館長) ぜひ、喜んでこちらもよろしく願いたい。一緒に学んでいければと思う。
- (大瀧課長) 市としてもよろしく願いたい。
- (関谷委員) 学校との連携は、看護大学もよろしく願いたい。別件だが、高校生・大学生は水族博物館入館料が一般料金になるため、割引はできないか。
- (大瀧課長) 学割の料金設定を考えていきたい。
- (川村会長) 新しくなっても名称は「水族博物館」なのか。「博物館」と付くと箔がつくが、愛称を付けた方がいいのではないか。
- (大瀧課長) 愛称を付ける方向で考えている。
- (川村会長) 一年間、指定管理をしての感想はどうか。
- (櫻館長) 大変だったが、上越はやりやすく、やりがいがあった。私は教育学部出身でもあり、私の水族館運営の理念は、教育施設として浸透させることである。
- (大瀧課長) 本社と対立しても、上越のために頑張ってもらいたい。

### イ 総合博物館

#### 【総合博物館資料 6～9 ページに基づき説明】

#### (2) 報告事項

- (川村委員長) 今回の博物館協議会は両部会が一堂に会しているため、総合博物館部会の委員は水族博物館へ、水族博物館部会の委員は総合博物館へ意見をお願いしたい。
- (稲葉委員) 文化都市「上越」なので、総合博物館が日常にある状態にしてほしい。仕事が終わって茶飲みに行くとか、ちょっと立ち寄るとか気軽に足を運べるところになってほしい。
- (宮崎館長) 了解した。総合博物館のリニューアルオープンは、平成 30 年の夏、はすま

つりの頃になる。

(大瀧課長) 新水族博物館のオープンは、平成 30 年 4 月から 6 月である。

(清沢委員) 水族博物館の資料 23 ページ (3 施設周辺の関連事業について) は、初めて説明するのか。

(大瀧課長) 博物館協議会では初公表である。

(川村委員長) 誘導看板は市の中でトータルに考えて設置してほしい。

(関谷委員) ミーティングスペースなどはあるのか。

(大瀧課長) 飲食スペースは入館料が不要なため、いろいろ活用できる。

(稲葉委員) 水族博物館に行った際、保育園児が床に座ってお弁当を食べていた。ご飯を地面に座って食べていいのか。幼少の頃の記憶は大切である。新水族博物館は集団で利用できるスペースはあるのか。

(大瀧課長) 特にそのようなスペースはないが、団体に関して臨機応変に対応していく。

(矢澤委員) 寝たきり状態の方が来館することがある。新水族博物館に、おむつを替えるところはあるのか。

(大瀧課長) 施設はユニバーサルである。車いすの方も全て大丈夫である。

(矢澤委員) 車いすより大変な方はどう対応するのか。

(大瀧課長) ハード面だけではなく、ソフト面・人的な対応面で適切に対応していきたい。

(川村委員長) このことは市の姿勢が問われる問題である。市では、ここまで配慮していますよのキャンペーンをしたらどうか。

(関谷委員) 実施設計が完了するということで、もう変更はできないのか。

(大瀧課長) 変更可能なところもあるので、意見を聞きながら進めていくことができる。

(川村委員長) 有識者の意見を聞きながら、ぜひ進めて行ってほしい。

様々な意見が出て有意義な会議であった。今後も博物館協議会をぜひ活用して行ってほしい。本日はありがとうございました。

## 9 問合せ先

上越市立総合博物館 [TEL:025-524-3120](tel:025-524-3120)

E-mail : [museum@city.joetsu.lg.jp](mailto:museum@city.joetsu.lg.jp)

## 10 その他 別添の会議資料も併せてご覧ください。